

家庭教育通信

第2号 平成20年6月11日発行

<テーマ> 上手な叱り方・ほめ方

家庭の中で子どもを叱る、そしてほめる。どちらも子どもに対する教育やしつけとして必要なことでしょう。今回は上手な叱り方、ほめ方のポイントをご紹介します。

上手な叱り方

叱り方には次の3つのポイントがあります。

- (1)「怒る」のではなく「叱る」
- (2)子どもの人格を否定するのではなく、子どもの行動について叱る
- (3)叱られたときの子どもの気持ちを汲み取って親が言語化してあげる

(1)については、親も家事や仕事で疲れ、つい感情に任せて子どもに怒りを向けることもあるでしょう。これが「怒る」という現象です。これに対して「叱る」とは、「ここがよくないからこうした方がいいよ」「それはしてはいけません」と冷静かつ真剣に、子どもに伝えることです。

(2)については、子どもの人格を否定するような叱り方は控え、その子の行動が間違っていることを伝える方がいいでしょう。つまり「そんなことする　　ちゃんはダメ!」と言うよりは「　　することはダメだよ」と、その子の具体的な行動を叱ることです。

(3)については、子どもが叱られる場面には、子どもなりに「でも　　したかった」「叱られてくやしい」など、処理しきれない気持ちが背後にあるはずです。親はそれを汲み取り、「本当は～したかったんだね」「叱られてくやしかったね」など、その子の気持ちを言語化してあげましょう。それにより、子どもは叱られて治めどころのない気持ちが少し解消されます。

上手なほめ方

仕事や家事などで忙しいときなどは、言葉でほめていても感情が込められていない場合があります。そのことを、子どもは親の態度から敏感に察知してしまいます。

上手なほめ方とは「心を込めて」ほめてあげることです。ちょっと大げさに喜んでほめてあげてもいいでしょう。

毎日がほめる機会

子どもは日々成長していますので、親には、子どもをほめてあげられる機会が毎日与えられているわけです。

気持ちよく心を込めて、子どもをほめてあげたいものです。

(臨床心理士 平山敦子)